



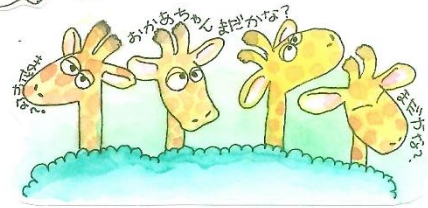
ササちゃん

通信

No.10

自然が好き

生きものが好き



目次

・始まりは、う〇こ!!	2
・ムモンケブカヒゲナガ再び!	4
・夏休みの思い出	5
・お次は、だあれ?	6
・テントウ作戦!?	8
・動物あしあとノート	10
・新参者が語る…	12
・二つの流氷クルーズ	13
・お先にどうぞ	14
・表紙描いて四方山話	16
表紙・イラスト	原まゆみ

始まりは、う〇こ!!

冬の「動物サポーターの7年展」が終わってほっとしたのもつかの間…夏の企画展のジオラマ制作というミッションを田中先生から与えられました。

しかも、5メートル×8メートルの広さに動物たちが暮らす里山を再現しようというではありませんか。小さな模型とか、ドールハウスのような手芸的なものは作ったことはあっても、さぼちゃんの誰もが未知への挑戦です!でも、不安より、面白そう\(^o^)/というワクワク感でプロジェクト開始です。

作業初日、「まず、う〇こをつくります」と、田中先生(*'▽')。は? う〇こ? ジオラマじゃないの?

先生曰く「生きていれば必ず排泄しますよね、う〇こを知ることは動物の生活を知る大きな要素なんですよ」とのこと。なるほど…と取りかかった私たち。紙粘土をこねて写真を参考に作っていきます。草食か、雑食か、体の大きさは…それぞれの生き物に特徴あり、なかなか奥が深い。同じような小さなコロコロう〇このウサギとシカでも、シカは先っぽがちよこっと尖っているとか、食べたもので色が変わるとか、木の実の皮とか種とか食べたものを推測する役に立つとかやっているうちに知るこ

とができました。

この年になって「う〇こ、う〇こ」言いながら 粘土をこねこねするなんて…楽しい！小学生男子のような気分で大笑いしながらの作業です。（こども、特に小学生男子はう〇こ好きですよー、何ででしょう？）

混ぜ込む種や殻を探したり、艶をどうつけるのか、リアルな色付けを工夫して、黙って置いておいたらびっくりされるような出来のブツが多数出来上がりました。

でも、実際に出来上がったジオラマの中に置くとほとんど目立ちません。それも里山の景色と同じではあるのですが、原さんがさささっと書いてくれた「うんち君マーク」をそばに置くことで見つけやすく工夫しました。効果はてきめん、企画展に来場した子どもたち「あつたー」「見つけたー」と喜んでくれているようです。

もちろん、ジオラマも業者さんが褒めて下さる出来に完成しました。
ああ、面白かった！ (間田 敬子)



大動物展の始まりは作ったジオラマ



ノウサギのそばに作ったフンをおく



フンのマークをフンのそばにおく



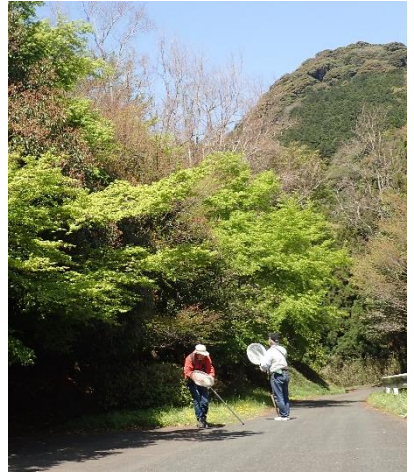
トラップなどの調査用具もおく

ムモンケブカヒゲナガ再び！

2年前のサポちゃん通信に『ヒゲナガという名の蛾』というタイトルで寄稿した。

それ以来、毎年5月に糸米川砂防園の周囲でムモンケブカヒゲナガに会えている。

毎年5月の一時期だけ出会える、金属光沢を放つ美しい蛾である。ところが今年はちょっと違う出会い方をした。



ヒゲナガのなる木

サポーター仲間の藤田さんはテントウムシが大好きで、彼女がテントウムシのなる木と呼んでいる楓がある。なんでも1本の楓に何種類ものテントウムシが集まるそうだ。

5月の採集日には、過去のデータから実績のある場所を見て回り、ヒゲナガを探すのだが、この日は全然見つからない。そんな時、藤田さんが、「テントウムシのなる木でヒゲナガ2匹取ったよー。」との事。

「エッ、本当？どれどれ…。ムモンケブカヒゲナガだ～！」

早速、テントウムシのなる楓の木に直行。じっくり見ると、1頭のオスが見つかった。

楓をネットの柄で叩くと、更に1頭追加。

2頭採集できたので、心穏やかに楓を眺めていると、アレッ、なんだか湧き出すように、楓の木の間からムモンケブカヒゲナガが次々と現れてくる。風が止み、太陽が暑いくらいに感じたころ、一斉に楓の上を飛びだすではないか。

なんと、テントウムシのなる木は、ヒゲナガのなる木でもあったか～。

(吉本 進)

夏休みの思い出

年齢 60 歳を過ぎて博物館サポーターとして活動しているが、最も楽しい活動は昆虫採集です。糸米川砂防園の周辺の野山で 2 週に一度、四季を通して（厳冬期は除いて）様々な昆虫と出会いがあります。7 年間で採集して昆虫標本 8000 体以上となり、一部は今年のテーマ展で展示することができました。

私の昆虫好きの原点は小学生時代の体験だと考えます。小学 5 年の夏休みに英彦山へ行ったときに初めてアサギマダラを見たことでした。長くて大きな捕虫網を持った人が見せてくれたその大きな蝶が長い距離を移動することやそのために翅に鱗粉がないことなど図鑑で知りました。もっと昆虫のことを知りたいと捕まえては観察や図鑑で調べました。

最近の子供の数も減り、外で遊ぶのをなかなか見なくなりになりましたが、夏休みになって我が家の近くの果樹園のお孫さんが遊びにくるようになりました。その 8 歳と 5 歳の兄弟が捕虫網をもって歩いているのを見かけました。そこでお節介な昆虫おじさんはカブトムシ等を簡単に採集できるベイトトラップ（のむらホイホイ）をもっていきました。廃棄される桃でベイトを入れて兄弟と一緒に近くの森に設置しました。翌朝に回収するとカナブンが多数と兄弟たちが望んでいたコクワガタが採れました。この過程についてはお兄ちゃんの夏休みの自由研究になることになりました。この兄弟がこの体験で昆虫や自然科学について興味をもってくれればいいなと願う昆虫おじさんです。（村上敬司）



捕虫網をもつ昆虫少年

お次は、だあれ？

この夏、山口市の話題と言えば小郡のサルでした。そこからさほど遠くない県庁近くの私達の活動拠点の一つでもある鴻ノ峰でも、これまでに何度も姿を見かけたし、鳴き声を聞く事もありました。兄弟山登山道そばの「たらちねの滝」周辺で、ザワザワと音を立てて吠えながら枝伝いにやって来たサル軍団と出会った時にはビビりましたが、子ザルがチョコチョコと岩を渡っている姿はとてかわいかったです。その後軍団は山頂へと向かって移動しました。

ここでは昆虫以外のものにもよく出会います。夜行性のはずなのに「何してるんですかぁー？」とポーッと草の斜面に座ってこちらの様子を見ているアナグマ。創造の森入口の側溝の中でフガフガしながら黙々とエサを探していたウリ坊は、しばらくして私が見ているのに気付くと「ヤベッ!!」と森の中へ姿を消してしまいました。

鳥に詳しいサポちゃんが珍しい鳴き声がしたり飛んでいたりすると「あれは〇〇よ。」と教えてくれるのですが、何度聞いても覚えられません（涙）。しかし目にした鳥で覚えているのもいて、その一つはクイタダキ。スズメぐらいの小さな鳥で頭のとっぺんのオレンジがかった黄色の短い羽根が特徴的でとてもきれいでした。逆に大きいのでは今年の春先に出会ったノスリの幼鳥。タカの仲間で50~60cmぐらいになるそうですが、まだカラスぐらいの大きさで全体がうす茶色っぽく、胸から腹にかけては白っぽい柔らかな羽根が暖かそうで正に羽毛。

そして一番多く出会うのが大の苦手の爬虫類。糸米川右岸遊歩道の湧水がチョウ達の水飲み場になっていて、付近にはシマヘビが住み着いているようで用心してはいるのですが、度々ドキッ!!とさせられます。そこから少し下流、左下のイネ科植物の茂みの中で空っぽになったカヤネズミの巣を見つけた事がありますが、まさかあの子達はあの長いヤツに・・・想像が外れている事を祈ります。

(山田 恵美子)



ノスリの幼鳥



ニホンザルの母子



イノシシの母子

テントウ作戦！？

我が家の小さな花壇にフジバカマとミニトマトの苗を植えました。ところが、6月フジバカマにアブラムシ大発生！柔らかい葉や茎にびっしり灰色のものが付いています。アブラムシの天敵と言えばテントウムシ。そこで、近くの土手からナナホシテントウを3匹捕まえてアブラムシの近くに放しました。これで駆除してくれるはず・・・ところが、しばらくすると残念どこかへ飛んでいってしまいました。後日、再度チャレンジしましたが同じくアブラムシ退治とはならず、私のテントウ作戦は空振りに終わりました。

そんなフジバカマに救世主が現れました。ダンダラテントウです。葉や茎をくるくると忙しく歩き回りアブラムシを食べてくれます。隣のミニトマトでは飛んできたアブラムシをモンクチビルテントウが食べてくれました。これぞ益虫、肉食のテントウムシは畑作りの味方です。

テントウムシには菌食の種類もあります。鴻の峰で時々見かけるキイロテントウはうどん粉病の原因のカビを食べてくれます。こちらも益虫です。

一方で嫌われもの（害虫）のテントウムシもあります。草食のもので、28個の星のあるニジュウヤホシテントウ類は植物の葉、特にジャガイモやナス・トマトなどのナス科の植物が好きです。

テントウムシの仲間は世界で6000種以上が知られ、そのうちの約20%は植物を食べるといわれています。日本国内では約180種のうち10種が草食です。

前述のテントウ作戦はあえなく空振りに終わりましたが、もしナナホシではなくてニジュウヤホシテントウを放していたら大変！今頃ミニトマトの葉は穴だらけの無残な姿になっていたことでしょう。

(藤田かおる)



モンクチビルテントウ 体長 2.3-3.0 mm



ニジュウヤホシテントウ類



ダンダラテントウ

動物あしあとノート

夏の動物展で配布した動物あしあとノート。短い作成期間の間にも画期的な技術の進歩(?)があり、私はそれを「サボちゃんの小さな産業革命(注1)」と名付けた。ノートは、A4の用紙に切り込みを入れ、折って作るのだが、厚手の紙のため、角を合わせてきっちり折っていくと、重なった部分に厚みが出てずれてしまい、きれいに仕上がらない。折っては戻し、また別の位置で折ってみる。紙には折り跡がたくさんついたが、きれいに出来たり出来なかったり。意地になって試していたが、理論的な藤田さんが、最初に5mmずらして折ると、きれいに仕上がるという結論を導き出してくれた。何事も筋道を立てて考えることは大事だ。切り込みを折り目より気持ち長めに入れておくと折りやすいこと、折る順番も、縦、横の順にするとその後の作業がスムーズに行くこともわかり、折ることが楽しくなってきた。ひたすら折っていると、小さなノートにも愛着が湧いてくる。より速く、より美しく、折りの技術は発展した。

次はスタンプ押し。サポーターが彫刻刀で彫ったゴム版を、上田さんの家にあった薪を適度な長さにカットしたものに張り付けた。どの動物の足跡かわかるように、原さんのイラストも添えた。最初は、一人で2種~3種のスタンプを持ち替えながら押していたが、珍しく作業机に6人がそろった時、間田さんの提案で、流れ作業にしたところ、速いこと速いこと!これは機械化したも同然!ベルトコンベヤーのすごさを皆で実感。これは、産業革命と呼んでもいいのではないか。一つのスタンプに集中できるので、より鮮明に押せる様、角度や力の入れ方を工夫できるといった利点もあった。また、流れ作業になったことで、平川さんの、スタンプを早くきれいに押す能力が半端なく高いことが判明。平川さんの隣に座っていた私の前に大量のノートがたまっていく。焦ってかすれたり、曲がったりしても、間田さんが「味だから大丈夫」と優しい言葉をかけてくれる。産業革命でも機械の操作に苦戦した人たちがいた

かもしれない、そして、また、そこには助け合いがあったのだろうなあ、としみじみと考えた私。

その後、動物によってインクの色を変えるという進歩もあり、1か月あまりの特別展の期間に動物あしあとノートは進化した。多くの来館者が手に取って持ち帰ってくれたようだ。結局、約4,000冊をつくった。ノートが子供たちの小さな夏の思い出になってくれたら嬉しい。私の夏の思い出は博物館の講座室で起こった小さな産業革命……。

(注1) 産業の技術的基礎が一変し、小さな手工業的な作業場に代わって機械設備による大工場が成立し、これと共に社会構造が根本的に変化する事。
(村中明子)



大動物展で子供たちにわたす 動物あしあとノート (折る前)

新参者が語る…

2022年3月31日に定年を迎え、自分の時間を自分だけのために使いたい！とあれこれしたいことの物色をしていました。

ストレッチやウォーキング、ヨガなど身体を動かすことはもちろんですが、「ピアノや書道、茶道…かつてしていたこともしたい。いやいや、まず仕事道具や家の後片付けをしなくては。」など先延ばししていたことにも取り組みたいと思っていました。

そんな思いをもっていたところ、(今までの仕事の分野は、歴史・政治経済・地理ですが)全く知らない世界を知りたい思いがじわじわ起こってきました。TVの例の香川照之さん(あの「大都会」中学生も大好きでした)と織田裕二さんによってさまざまな生物について知ってみたいと思いました。

そして、何も分からないまま参加した初めての活動は、〇〇〇作りでした。さまざまな動物の〇〇〇を、専門書をもとに皆さんが喜々として作製されていたことに、カルチャーショックを受けました。「形はこうよね。」「色は、茶色が足りない。」等々…。説明を受けて、展示物の一部だと分かりましたが、どうしたら分かりやすい展示になるのかをまず第一に考えて活動されていることがとても素敵でした。

私事を優先して、なかなか活動に参加できないのですが、新参者としては、また、新しいことにチャレンジしたいなど思っている今日この頃です。

最後に、大学時代からの友人間田さん、新しい出会いを紹介してくれてありがとう。これからも飲み友だちでもいてね。(平川 清美)



タヌキ



ツキノワグマ



キツネ



イノシシ

二つの流氷クルーズ

初日（2022年2月7日）、羽田空港から紋別空港までの約2時間のフライト。流氷砕氷船（ガリンコ号）に乗船。

船首にドリルの様な物がついていて氷を割って進む、残念ながら流氷は無く所々に氷が浮かぶ。流氷は北風が吹くと着岸し南風が吹くと離れていく。港は氷泥に覆われていた。乗船後直ぐに防波堤にオジロワシが見られた。ガリンコ号の発着場の近くにオオワシも見られた。宿泊した翌朝、フロント近くの庭にはエゾリスのエサ台が有りタイミング良く見る事が出来た。



エゾリス



オオワシ



オジロワシ

2日目は網走市でお-ろら号に乗船、お-ろら号は船の重さで砕氷して進む。流氷は沖合30分進んだ所にあり砕氷しながら進むのは迫力満点。この日の宿は阿寒川を望む部屋で朝起きると川霧と樹氷が綺麗だった。宿の玄関の直ぐそばにエゾシカが数頭見られた。



お-ろら号



流氷とオジロワシ



エゾシカ

3日目は釧路湿原の鶴見台でタンチョウの群れを見た。（本間喜美恵）



タンチョウ（ツル目ツル科）
日本で唯一繁殖しているツル

お先にどうぞ

最近、私の身近に起きた出来事です。

○お先にどうぞ その1 強気なへびと弱気な犬と私

愛犬ごとと草むらを散歩していると、元気よく歩いていたごんが急に立ち止まりました。私を見上げて「お先にどうぞ。」と目で訴えています。先に歩くと1mはありそうな立派なヤマカガシがものさしのようにぴんと真っ直ぐに伸びていて道をふさいでいます。草をちぎって投げると鎌首を上げてにらまれてしまいました。「それではお先にどうぞ。」と1匹と1人は大回りをして散歩を続けました。

○お先にどうぞ その2 サルも人も考えました

少し離れたご近所さんに回覧板を届けに行きました。私道から橋を渡り道路に出ると向こうからサルが歩いて来ます。どうしようかなと様子を見ているとサルは道端の果樹園に入りました。よけてくれてありがとねと思い、そのまま道路を歩き橋を渡り回覧板を届けました。さあ、帰ろうと橋を渡って道路に出るとサルも果樹園から出てきました。今度はよけてくれそうにないし、一緒に歩いてくれそうにもないので「お先にどうぞ。」と私は大回りをして帰りました。

○お先にどうぞ その3 交通ルールを守るアナグマ

我が家の前の道路は道幅が狭いうえにタヌキやキツネ、ウサギにアナグマ、サルにイノシシなどいろいろな動物たちも利用しています。そのため、速度を落として注意を払いながら車を運転しています。ある日のお昼過ぎ、いつものようにゆるゆる車を走らせていますと、道端でこちらを見ている1頭のアナグマと目が合いました。私は「お先にどうぞ。」とブレーキを踏みました。車が止まるのを確認すると、そのアナグマは道を横断して草むらへ入って行きました。

お礼は言ってもらえませんが、人に限らず「お先にどうぞ。」は気持ちのいいものだなとつくづく感じた出来事でした。

(上田 貴子)



アカネズミ



イタチ



ノウサギ



アナグマ



ニホンカモシカ

う?



ニホンザル



表紙描いて四方山話

今年の夏の特別展は「ふしぎ!おどろき!大動物展」
でした。サポちゃんチームも手を出し足を出し...
だって大好き♥な動物達の展示ですから!! さらに
口も出さずにいられます★ おかげで変異を続ける
コロナ禍にもかわらぬ充実した時間を過ごす事が
できました。と、いうことで

会場案内をしていた動物達に
サポちゃんの案内もたのみました



山口博物館サポーター動物班活動報告 “サポちゃん通信” No. 10

発行 2022年8月25日

編集 山口県立山口博物館サポーター動物班

発行 山口県立山口博物館 〒753-0073 山口市春日町8-2

Tel 083-922-0294 Fax 083-922-0353

サポちゃん通信バックナンバーも閲覧可能

<http://www.yamahaku.pref.yamaguchi.lg.jp/supporter.html>

